

「社会福祉法人妙光福祉会基本理念」

社会福祉法人妙光福祉会は、利用者の立場に立って豊かな自然環境の地域において「安全」「快適」「やすらぎ」のある生活の支援に努めることを基本理念とします。

「社会福祉法人妙光福祉会基本方針」

社会福祉法人妙光福祉会は、「地域社会における福祉の発展と充実」を使命として地域貢献と安定した経営に努めます。

社会福祉法人妙光福祉会は、多様な福祉課題に柔軟かつ主体的に取り組み、常に高い公益性と透明性をもって社会福祉事業を実施します。

社会福祉法人妙光福祉会は、社会的責任の重さを真摯に受け止め、健全な経営を行うよう、全ての法令を遵守します。

3つの目標

1. 「安全」なサービス提供のため、リスクマネジメント体制の充実に努めます。
2. 「快適」な生活のため、個人の尊厳に配慮した良質かつ安全なサービス提供に努めます。
3. 「やすらぎ」のある生活のため、温かい「思いやりのこころ」で接します。

令和元年度（平成31年度）社会福祉法人妙光福祉会事業報告

法人全体

社会福祉法人は、公的な財源をもとに、その中心的な担い手として福祉サービスを提供しています。よって、経営組織のガバナンスが確立され、財務の面でも自立した組織体であることが求められています。また、社会福祉事業の充実・拡大を進めるとともに、人口減少社会の到来や単身高齢者等の増加等を背景にした、多様化・複雑化している地域福祉ニーズに応えていくことを期待されています。

妙光福祉会として、「地域における公益的な取組」を平成27年度からの継続重要目標に掲げ、当法人の人材や機能を地域に還元する取り組みについて次のとおり報告します。

地域との連携・貢献

- ・地域の単身高齢者等を対象とした各種取り組みの実施（買い物ツアーや等）
- ・介護保険サービスにおける低所得者の利用者負担減免
- ・貧困・生活困窮者等を対象とした生活支援の実施
- ・災害時における各種支援活動の実施（要介護者の受け入れ態勢の強化等）
- ・地域の中学生を対象とした宿泊体験学習会の実施
- ・地域における介護予防事業の実施等

頼されるサービスの提供

- ・サービス充実のため、各事業所の運営基準の遵守と定期的にサービスの見直しを行い、事業計画の進捗状況の確認の実施に努めた。
- ・提供するサービスについて、継続的な自己点検（自主点検）の活用による整備に努めた。
- ・利用者に対する責任の重さを認識し、リスク管理体制の強化に努めるために、リスクに対する意識向上に努めるとともに、サービスに関する苦情・相談等内容と改善・対応の状況を公表することで、社会性や客観性を確保し、円滑・円満な解決促進に努めた。
- ・各事業の法令違反、運営基準違反、不正請求、人権侵害等の発生を防止するシステムの運用確認（自己点検及び内部監査）に努めた。
- ・法令遵守マニュアルに基づき、法令だけでなく、社会規範、ルール及びマナーの遵守についても含まれた職員研修の実施により、コンプライアンス意識の高い職員が働く職場づくりに努めた。

人事管理

- ・事業計画を理解し、自ら考えて行動する人材の育成に努めた。（階層別研修）
- ・キャリアアップや求められる職員像を明確にし、達成に向けた研修、学卒採用時に集中的に基礎研修を行うとともに、段階的にキャリアアップ研修を行う目的別研修の充実に努めた。（役職者研修、階層別研修）
- ・結婚・出産・介護などライフスタイルの変化に応じた働き方の要望に応えられるシステムを備えることや、職員のメンタルヘルスを考え、定期的に上司との面談の機会を設ける等により、仕事を長く続けられる取り組みに努めた。

- ・計画的年次有給休暇の取得等、働き方改革の推進に努めた。
(年間最低5日取得目標達成)
- ・職員の健康管理、労働災害防止等、労働安全衛生法に基づいた職場の安全衛生の向上に努めた。

財務管理

- ・法人経営収支実態の分析と、借入金の返済計画の適正化に努めた。
- ・各施設の大規模修繕に向け、中長期的な計画、実施に努めた。
- ・会計業務の技能向上による正確かつ迅速で合理的な会計処理に努めた。
- ・介護保険等の利用料未収金0円（年度末）の達成。

組織管理

- ・経営組織のガバナンスの強化
 - ①理事会 …執行機関としての強化
 - ②評議員会…議決機関としての位置づけ
 - ③監事 …監査機能としての強化
- ・事業経営の透明性の向上
 - ①情報公開の対象範囲の拡大とルールの明確化に基づく、ホームページ及び財務諸表等電子開示システムでの公表

1. 事業の概要

諸会議

(1) 理事・評議員会

- ・法人及び施設の事業計画・予算・決算の策定・執行、その他の重要案件についての提案

理事会

- 第1回 令和元年 5月28日
- 第2回 令和元年 6月18日
- 第3回 令和2年 1月21日
- 第4回 令和2年 3月16日 (決議の省略)

評議員会

- 第1回 令和元年 6月18日
- 第2回 令和2年 1月30日
- 第3回 令和2年 3月26日 (決議の省略)

(2) 管理職会議

- ・法人全体及び各エリアごとの管理職による会議の実施 (毎月1回実施)

(3) 各種委員会

- | | |
|-------------------|--------------------|
| ・安全衛生委員会 (毎月1回実施) | ・オンブズマン会議 (毎月1回実施) |
| ・苦情解決委員会 | ・研修委員会 (随時) |
| | ・広報委員会 (随時) |

入札

- ・介護老人保健施設寒河江やすらぎの里「冷温水発生機NO. 2更新工事」
指名競争入札日：令和元年6月25日
落札業者：遠藤設備建設㈱ 落札金額：15,984,000円（税込）
契約締結日：令和元年6月27日
設置完了日：令和元年9月27日
支払完了日：令和元年10月18日

総会及び研修会

- ・平成31年度 天台宗社会福祉事業推進協議会 総会及び研修会
開催日：令和元年7月10日～11日
開催場所：やすらぎの里金井、いちょうの家（南陽市）及び天童市「いちらく」

2. 定款変更

平成31年度（令和元年度）実施なし

3. 登記

令和元年6月19日 平成30年度決算総資産登記
令和元年6月28日 理事長登記

4. 監査及び訪問調査

- 令和元年5月13日～15日 財務会計に関する事務処理体制の向上に対する支援業務実施
(支援業務実施者：山口英朗公認会計士事務所 公認会計士 山口英朗)
- 令和元年5月15日 財務会計に関する事務処理体制の向上に対する支援業務報告書の報告
- 令和元年5月17日 社会福祉法人妙光福祉会監事監査
(事業：加賀監事 会計：澁谷監事)
- 令和元年5月29日 山形年金事務所による全国健康保険協会管掌健康保険及び厚生年金保険被保険者の資格及び報酬の調査
(山形年金事務所／本部事務局対応)
- 令和元年8月27日 寒河江市による介護保険サービス事業者等実地指導
(寒河江やすらぎの里認知症高齢者グループホーム対応)
- 令和元年8月28日 山形市による介護保険サービス事業者等実地指導
(地域密着型介護老人福祉施設 やすらぎの里金井対応)
(やすらぎの里金井 小規模多機能型居宅介護事業所対応)
- 令和元年10月18日～11月8日 社会福祉法人妙光福祉会 内部経理監査
(法人内部経理監査担当／法人全事業所対応)
- 令和元年10月31日 山形県による介護保険サービス事業者等実地指導
(介護老人保健施設 寒河江やすらぎの里対応)
(寒河江やすらぎの里 短期入所療養介護事業所対応)

		(寒河江やすらぎの里 訪問リハビリテーション対応)
令和 元年 12月 17日	山形市による介護保険サービス事業者等実地指導 (特別養護老人ホーム 蔵王やすらぎの里対応)	
	(蔵王やすらぎの里 短期入所生活介護事業所対応)	
令和 元年 12月 17日	山形市による一般指導監査 (軽費老人ホーム (A型) 蔵王やすらぎの里)	
令和 2年 2月 14日	寒河江市による事業所内保育事業に関する指導監査 (寒河江やすらぎの里保育園対応)	

5. 補 助 金

山形市県軽費老人ホーム事務費補助金	(67,062,384 円)
平成31年度介護老人保健施設寒河江やすらぎの里建設資金償還補助金	
	(寒河江市) (8,273,759 円)
令和 元年度社会福祉施設経営支援特例基金利子補助金 (老健寒河江)	
	(3,031,647 円)
平成31年度寒河江やすらぎの里痴呆性高齢者グループホーム建設資金償還補助金 (寒河江市) (1,504,234 円)	
令和 元年度介護保険サービス等における低所得者の利用者負担減免補助金 (山形市) (56,600 円)	
介護サービス基盤整備事業費補助金 (軽費蔵王／山形市) (令和元年度高齢者施設等の非常用自家発電設備整備事業分) (154,000 円)	
介護サービス基盤整備事業費補助金 (特養金井／山形市) (令和元年度高齢者施設等の非常用自家発電設備整備事業分) (308,000 円)	
介護サービス基盤整備事業費補助金 (金井多機能／山形市) (令和元年度高齢者施設等の非常用自家発電設備整備事業分) (308,000 円)	

6. 助 成 金

天台宗務序	令和 元年度社会福祉団体活動奨励金	(415,000 円)
天台宗山形教区	平成31年度社会福祉事業助成金	(50,000 円)

7. 借入金償還

【社会福祉・医療機構償還】

老健			
4月 10日	介護老人保健施設	元金・利子償還	(11,504,812 円)
7月 10日	介護老人保健施設	元金・利子償還	(11,451,420 円)
10月 10日	介護老人保健施設	元金・利子償還	(11,398,027 円)
令和 2年			
1月 10日	介護老人保健施設	元金・利子償還	(11,344,635 円)

【市中銀行】

老健

9月30日 令和2年 3月30日	介護老人保健施設 元金・利子償還	(7,045,336円)
	介護老人保健施設 元金・利子償還	(7,020,055円)

グループホーム

9月30日 令和2年 3月30日	グループホーム 元金・利子償還	(2,262,592円)
	グループホーム 元金・利子償還	(2,255,192円)

8. 申告・届出・報告

令和元年	
6月20日	法人現況報告(山形県)
6月21日	法人現況報告(法人ホームページ)
6月28日	法人税確定申告(山形税務署)

9. 経営計画指導(株式会社 旭ブレインズ)

令和元年	
6月10日	第1回目
11月7日	第2回目
令和2年	
2月14日	第3回目

10. 職員昇格試験

昇格対象職員	2名
令和2年	
2月10日	面接試験
	昇格者検討審査会
	昇格決定 2名

11. 職員採用試験

令和元年	
9月27日	新卒者採用試験
10月29日	新卒者採用試験
12月20日	正職員登用試験
令和2年	
1月28日	新卒者採用試験

(第1回目筆記・面接)

(第2回目筆記・面接)

(筆記・面接)

(第3回目筆記・面接)

1.2. 職員研修

法人主催研修

研修名	実施日	研修内容
主査研修 蔵王やすらぎの里	11月19日	・ 「役職者の役割」 株式会社 旭ブレインズ 鈴木正喜氏 参加者：主査 6名
主任研修 蔵王やすらぎの里 寒河江やすらぎの里 やすらぎの里金井	11月13日 11月26日	・ 「役職者の役割」 株式会社 旭ブレインズ 鈴木正喜氏 参加者：主任 15名
副主任研修 蔵王やすらぎの里 寒河江やすらぎの里 やすらぎの里金井	10月 1日	・ 「役職者の役割」 株式会社 旭ブレインズ 鈴木正喜氏 参加者：副主任 9名
チーフ研修 蔵王やすらぎの里 寒河江やすらぎの里 やすらぎの里金井	10月15日 10月29日	・ 「役職者の役割」 株式会社 旭ブレインズ 鈴木正喜氏 参加者：チーフ 13名
中堅職員研修 (経験年数5年以上) 蔵王やすらぎの里 寒河江やすらぎの里 やすらぎの里金井	7月 9日 7月16日 7月23日 8月 6日 8月20日 8月27日	・ 「中堅職員の役割とは」 株式会社 旭ブレインズ 鈴木正喜氏 参加者：介護職員 36名
中堅職員研修 (経験年数5年未満) 蔵王やすらぎの里 寒河江やすらぎの里 やすらぎの里金井	9月 3日 9月17日 9月24日	・ 「中堅職員の役割とは」 株式会社 旭ブレインズ 鈴木正喜氏 参加者：介護職員 21名
中途採用職員研修 蔵王やすらぎの里 寒河江やすらぎの里 やすらぎの里金井		※該当職員なし
人事評価制度研修 蔵王やすらぎの里 寒河江やすらぎの里 やすらぎの里金井	9月 9日	・ 「人事評価制度について」 株式会社 旭ブレインズ 鈴木正喜氏 参加者： 6名

学卒採用新人職員研修 (第1回目)	4月 1日 4月 2日 ～3日	<ul style="list-style-type: none"> ・ 法人の理念と歴史について ・ 法令遵守について ・ 就業規則 ・ 法人内事業所について <p style="text-align: center;">本部事務局</p> <p style="text-align: center;">参加者：4名</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 「仕事をするにあたって」 <p style="text-align: center;">株式会社 旭ブレインズ</p> <p style="text-align: center;">鈴木正喜氏</p> <p style="text-align: center;">参加者：4名</p>
学卒採用新人職員研修 (第2回目)	3月 17日	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「一年間の振り返りと先輩職員としての心得」 <p style="text-align: center;">参加者：2名</p> <p style="text-align: center;">※コロナウイルス感染症対策のため、研修会の開催は省略とする。</p> <p style="text-align: center;">ただし、課題の確認は、各自、研修報告書の提出をもって研修実施とする。</p>

事業所名： 軽費老人ホーム（A型）蔵王やすらぎの里

目標	実施内容	評価
経営の管理	<p>①利用者のニーズに添った生活支援</p> <p>②情報公開・広報</p> <p>③地域における公益的な取り組みの実施</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度もアンケート調査等の実施により利用者の意向や心身の状況、食事面での嗜好等を把握しニーズに添った支援に努めた。 ・行事や余暇活動等でも趣味や特技等を発揮いただける機会を設けながら支援に努めた。 ・行政機関や地域包括支援センターへの定期訪問を行ったが例年以上に利用者の入退所の変動があり空室の状況もみられた。 引き続き広報活動を実施し関係機関との密な連携に努める。 ・大型台風発生時、地域の一人暮らしの高齢者を受け入れ不安なく過ごしていただくことができた。 ・併設の特養と連携し中学校での職業講話を実施し高齢者の理解と介護への関心を深めていただく機会となつた。 ・上野ショッピングツアーリの利用者の方を喫茶や秋祭りに招待し楽しんでいただくことができた。
事業の管理	①利用者全体の自立度の維持	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度は入院者数が増加し治療継続や永眠されて退所となった方も少なくなかった。職種間や医療機関と連携を図りながら慢性疾患コ

	<p>②法令遵守</p> <p>③正しいリスク把握と分析</p>	<p>シトロールや体調異常の早期発見に努め、利用者の健康維持と介護予防に向け支援していく。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・法令遵守マニュアルや関係法令について内部研修等で再確認を行いながらサービス提供に努めた。 ・建物や備品等の安全点検を徹底し不具合のある箇所については迅速に修繕や備品購入を行った。 <p>年度末より新型コロナウィルス感染症の感染拡大が深刻化する中で感染予防委員会を開催し、併設事業所と連携を図りながら迅速に感染予防対策を実施することができた。引き続き利用者や施設関係者より感染予防対策の実施とご協力をいただきながら安全な生活が確保できるよう支援していく。</p>
財務の管理	①資金管理の適正化	<ul style="list-style-type: none"> ・今後も老朽化による備品等の入替えや修繕費等の支出が見込まれることから計画的に無駄のない資金運用に努める。
人事の管理	<p>①業務改善</p> <p>②自己啓発</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・早めのスケジュール管理を意識しながら職員間で業務協力をを行いながら実施することができた。 ・個人目標を設定し目標に向けて評価を行いながら取り組むことができた。

事業所名：特別養護老人ホーム蔵王やすらぎの里（短期入所生活介護含む）

目標	実施内容	評価
経営の管理	<p>①利用者本位のサービス提供を強化</p> <p>②地域における公益的な取り組みの実施</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・全体的に利用者的心身機能低下が見られ、日々の健康管理は行っていたものの専門的治療が必要となり入院者を多く出す結果となつた。 ・行事なども参加できる利用者が限られてきており、積極的な取り組みが出来ず行事の回数も減り、マンネリ化もみられている。 ・短期入所に関しては、緊急時の受け入れを柔軟に行ってきた。 リスク管理として骨折事故が2件発生、窒息が1件あり、再発防止に努める。 ・法人減免の実施 ・蔵王第一中学校からの依頼にて介護に関する職業講和を実施、中学生に介護業務魅力や、やりがいを伝えることが出来た。 ・今年度も上野地区との防災協定による自然災害自主避難者4名（台風）の受け入れを行った。また蔵王半郷地区の自主避難場所の設備不備により急遽一般の避難者7名も受け入れた。

事業の管理	<p>①稼働率の向上と安定化</p> <p>②法令遵守の強化</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・特養：目標稼働率 98% 令和元年度実績 97.6% (高齢者虐待による措置入所 1名) 定員 50名 + 虐待 1名の 51名で推移。 年度後半利用者の入院者が多くなり、目標としていた98%に届かなかった。更なる健康管理に努め、多くの有効待機者の確保に努めていきたい。 ・短期入所：目標稼働率 80% 令和元年度実績 90.2% 前年度と比較し稼働率がやや下がってしまった。 今後も緊急受入れや困難ケースの受け入れを柔軟に行い、各居宅への信頼による稼働率のアップに繋げたい。 ・関係法令と制度を理解するため内部研修等を行い、法令遵守の意識付に努めた。
財務の管理	<p>①利用料金の回収率 100%を目指す</p> <p>②支出の節減</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度も未収金ゼロで経過することが出来た。 ・今年度は、ボイラー入替予定をしていたが、修理作業で稼働可能となる。そのため入替時期は延期となる。 ・施設の防犯対策の観点で防犯カメラの設置を予定していたが、業者との調整により、次年度作業となる。 ・社会福祉法人制度改革に対しては大きな混乱もなく対処することが出来た。また

	<p>③介護報酬改定後の適切な取り扱い</p>	<p>総合事業での勘定科目も新たに設定されたが、会計システムを理解し合いながら処理等の対応が出来た。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事務処理に関して単純ミスや入力ミスが目立っていた為、事務員等で確認方法を改善し、ミスを減らしていく。
人事の管理	<p>①専門性を向上させるための研修</p> <p>②人材確保と定着、人材育成</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・専門性の向上、自己啓発の為、前年度よりは外部の研修へ多く参加させることができた。 ・今年度は離職者ゼロを目指し取り組んでいたが2名の離職者を出してしまった。 ・勤続年数が10年前後の若い職員が多くなって来ているなかで、経験年数と共に着実な成長を進めていく事が重要課題である。本人の方向性、性格、やりがいなど確認しながら育成を進めて行きたい。

事業所名： 蔵王やすらぎの里 通所介護事業所

目標	実施内容	評価
経営の管理	<p>①組織統治（ガバナンス）の確立</p> <p>②事業所の現状把握と戦略策定</p> <p>③地域公益活動</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・大きな事故もなく、法令遵守に努め、安全に介護業務に努めることが出来た。 ・利用者満足度調査を行うことで利用者、家族のニーズを把握することができたが日々の活動へ反映することができず、業務の改善が必要と感じた。 ・外出会については、外出の機会が減ったことで、施設内の敷地を利用しての活動を増やし、取り組む事が出来た。 ・居宅、包括への利用状況の報告を毎月行い情報の発信と共有に努めた。 ・半郷デイとの連携を継続しながら対応ができた。 ・上野地区との防災協定により、台風被害を恐れ、自主避難してきた方々をデイフレアを避難場所として提供が出来た。 ・ショッピングツアーに関しても事故無く好評で終えることができた。 ・地域からのボランティアを受け入れ、交流も兼ねて実施することが出来た。
事業の管理	①稼働率の向上と安定化	<ul style="list-style-type: none"> ・稼働率の向上を目指し、業務調整しながら営業活動を行ったが、入院者や亡くなった方等も多く、後期は伸び悩んだ。引き続き営業等を実施する。

	②法令遵守の強化	<ul style="list-style-type: none"> ・内部点検や内部研修等を行い、情報の共有や介護におけるコンプライアンスを深め paramString が出来た。
財務の管理	①利用料金回収率 100%を目指す ②支出の節減	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度も事務方と連携し、支払状況を確認しながら家族(支払者)への連絡等を行い大きな問題なく回収することが出来た。 ・予算書に基づいた支出管理に努め、事務との連携を行いながら、無駄な出費をせず、節減に取り組むことができた。
人事の管理	①向上心と介護の質を高める為 知識、技術の習得 ②人材確保と職場環境整備	<ul style="list-style-type: none"> ・仕事に対しての意識向上を図るため、外部研修等へ積極的な参加を考えていたが業務の調整がつかず、積極的な参加には至らなかつた。限られた人員の中で意識を一つにし、チームで仕事を円滑にまわす対応が出来た。 ・今年度は離職者を 1 名出すことになったが、職員の事故などもなく、職場環境の整備に努めることができた。

事業所名：やすらぎの里半郷 通所介護事業所

目標	実施内容	評価
経営の管理	①通所介護事業と介護予防・日常生活支援総合事業の通所型サービスの適正な管理 ②日常生活支援に対するサービス提供 ③法人内のサービスにおける入口としての機能 ④地域における公益的な取り組みの実施	<ul style="list-style-type: none"> ・通所介護事業と総合事業通所型サービスをバランスよく管理することができた。 ・支援計画、介護計画のもと利用者個々人へサービスを提供できた。 ・法人内の事業所と連携を図り利用者の状態変化に伴う事業所の調整を行うことができた。 ・ボランティアの受け入れを行い、また蔵王地区まつりに参加し地域における公益的な取り組みに努めた。
事業の管理	①稼働率の向上と安定化 ②法令遵守 ③リスクマネージメントへの適正な対応	<ul style="list-style-type: none"> ・主に要支援者、事業対象者を利用者獲得につなげ、介護予防を中心とした取り組みをおこなうことができた。元気あっぷ教室にあっては昨年より利用者は増えたが安定した稼働率ではなかった。 ・内部研修を実施し職員一人一人が法令遵守に心掛けた。 ・ひやりハットや事故の中から検証をおこない業務改善や環境整備を行った。また職場内研修を実施した。
財務の管理	①利用料金回収率100%を目指す ②適正な資金計画	<ul style="list-style-type: none"> ・事務との連携を図り、利用料金の未収はなかった。 ・事務と連携を図りその都度収支の確認をとることができた。
人事の管理	①専門性の向上を図るための研修実施	<ul style="list-style-type: none"> ・外部研修に参加することはなかなかできなかつたが、職場内研修を通して情報収集し知識を向上できた。

事業所名：蔵王やすらぎの里 居宅介護支援事業所

目標	実施内容	評価
経営の管理	①適切なケアマネジメントの提供 ②地域公益活動	<ul style="list-style-type: none"> ・特定事業所加算(Ⅱ)の算定事業所として質の高いケアマネジメントに努めてきた。 ・蔵王地域を中心に地域の支援ケースを受け入れた。 ・地域ケア会議へ参加し、ケース検討を行った。 ・山形県介護支援専門員実務研修実習生を受け入れた。
事業の管理	①稼働率の安定化 ②法令遵守 ③リスクマネジメントの強化	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度の新規受入れ 49名、終結者 29名。年間の延べ担当人数は介護、予防合わせて延べ 1560 件を担当した。 ・目標設定の稼働率を毎月 80% 維持した。 ・前年度の利用者満足度調査をもとに利用者、家族の満足度向上や稼働率の安定を図った。 ・年1回の事業所内自主点検、介護サービス情報公表制度の受託、利用者等への満足度アンケート調査を行った。また、毎月の特定事業所加算遵守状況を確認し公正中立、適切なアセスメントのもと特定の事業所に偏ることなくサービス提供を実施した。 ・車両事故 1 件、請求事故 7 件その他 1 件。車両事故についてはドライブレコーダーにより検証、請求事故については再発防止のため検証を行った。 ・利用者、家族の情報を適切に管理した。

財務の管理	①収入の確保と支出の節減	<ul style="list-style-type: none"> ・毎月の稼働率状況（給付件数状況、収入実績）を確認し安定した収益を目指した。予算達成状況は累計で90%。 ・訪問時のP Cの節電に努めた。 ・当初予算通りの支出で公用車の購入を行った。
人事の管理	①人材育成 ②専門性を高めるために計画的な研修を行う	<ul style="list-style-type: none"> ・スキルアップのための外部研修へは、職員間で参加率に差が出ていた。 ・専門性を再確認するための内部研修、伝達研修を定期的に実施し相談援助を行ううえでの必要な基礎知識を習得した。

事業所名：蔵王地域包括支援センター

目標	実施内容	評価
経営の管理	①公平中立 ②連携と協働 ③住民視点	・山形市蔵王地区内の保健・医療・福祉及び地域関係者との連絡会等を通じて、情報の共有や課題の整理、解決等への助言を行い連携強化と協働に努めた。民生委員だけではなく、高齢者いきいきサロンを通じて、地区社協・町内会長・福祉協力員等の顔つなぎができるようになった。
事業の管理	①法令遵守 ②情報管理 ③迅速な対応 ④実践力の向上	・個別困難ケースについては、地域ケア介護を開催し、地域関係者も含め課題解決に向けて検討を重ねた。 ・複雑化する相談内容に対して、包括内協議と専門機関等への相談を通じて適切に対応した。また地域高齢者に対して介護予防の意識を高めてもらうため、積極的に職員を派遣し、啓蒙活動を行った。
財務の管理	①適切な資金計画 ②透明性 ③適正な原価管理	・事業計画及び収支計画に基づき、隨時山形市担当課や事務担当者と連携を図りながら、適正に遂行した。
人事の管理	①援助に活用できる情報及び知識の習得 ②職種の連携と協働	・介護保険制度並びに関係法令の中での地域包括支援センターの役割が多様化する中、限られた、人・時間・物で対応できるよう優先順位をつけながら業務を遂行した。

事業所名：介護老人保健施設 寒河江やすらぎの里（短期入所も含む）

目標	実施内容	評価
経営の管理	<p>①やすらぎの里の理念に則って、協働意識のもと個々のニーズに合わせたサービスを提供する</p> <p>②地域における公益的な取り組みの実施</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・職員が充足されぬからこそ、事故防止など危機管理意識を高め多職種が協力し利用者の施設生活を支援できていると評価する。 ・今年度も感染症の発症なく推移し利用者様には落ち着いた施設生活の提供に取り組めていると評価する。 ・今年度は、リハビリ専門職の産休者が同時期に多数おりサービス提供に支障をきたした。 ・地域との交流活動や、行事参加、健康体操での施設開放利用提供を継続し行った。 生活困窮者への利用料減免措置は利用者の1割をめどに実施してきた。
事業の管理	<p>①稼働率97%の安定を図る</p> <p>②法令遵守に努める</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度稼働率実績は94.94%と前年を若干上回ったものの未達成に終了した。 今年度は、在宅機能強化を目指して老健機能の明確化や運営上の計画的ベッドコントロールに取り組んでみたが、総じて不成功に終わり稼働率として結果に表れている。 老健として運営していく以上選択の余地もない状況となっているが、項目をクリアしていくにもハードルは高い。 ・今年度は、業務上及び職員個々においても社会違反、社会規範にもとる行為とともに散見されなかった。 引き続き法令遵守に努めて

		いなければならない。
財務の管理	①社会情勢を見据えた経営戦略を持ち安定した収益を目指す	<ul style="list-style-type: none"> 稼働率にみられるように目標とする収入は未達に終わり、全体として、人件費率が上がらないため収益は確保された。 <p>経過年数による設備更新について、昨年から大規模な設備を計画的に実施し、今年度で冷温水発生機の入替は終了し、いよいよ躯体等々に係る修繕、電話設備の更改を目論む矢先に修理不能の故障発生、更新の計画年度に若干ずれが生じているが、維持管理に必要不可欠の支出が今後当面続いているため、適正収益確保、収支バランスを図り遂行していく。</p>
人事の管理	①人材の確保・定着を目指す	<ul style="list-style-type: none"> 今年度は、定着という観点からは、さほど退職者もなく安定していたと言いたいところであるが、介護員については臨時、正職員の補充はあったものの定着せず内容、数的、ともに底上げに至らず仕舞いであった。 <p>また看護員については、施設存続にかかわる配置を維持する瀬戸際状態であり、オンコール制も対象職員が減り少人数での持ち回りくなっている。常に増員が課題である。</p> <p>資質向上のための研修に際しても、機会の確保はできても派遣できる職員のやりくりがままならず、苦慮している。</p>

事業書名：寒河江やすらぎの里 通所リハビリテーション

目標	実施内容	評価
経営の管理	<p>①自立支援に向け利用者主体の活動を通し、生活レベルを向上させる。</p> <p>②地域における公益的な取り組みの実施</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・何でも手助けするフルサービスを止め、利用者ができることは時間が掛かっても「自分でやる」とし、実践的な動きを盛り込み、自立支援を重視した。また、継続利用を目指すものではなく、自宅で自分らしい自立した生活に戻ることを目標にした「卒業」を視野に入れ、機能強化目的を明確にすることにより職員の支援の介入方法も明確になりサービスの質の向上が可能となった。 また同時に、業務効率の工夫を探り、到着時の効率化（自分の荷物を自分で管理する）健康チェックの効率化（バイタル測定は自分で測定、記録用紙に記入する事で利用者の健康意識が高まった）等利用者の自立支援に大きく効果をあげた。この基盤を基にさらに個別化した自立支援を実施していく。 ・地域の保育園児との交流や小・中学生他個人または団体のボランティア等幅広い受け入れを積極的に行った。

事業の管理	<p>①稼働率82%の目標</p> <p>②リスクマネジメントの構築</p>	<ul style="list-style-type: none"> 目標の82%に対し、実績平均値76.2%と目標に達成することができなかつた。 前半は一定数の利用者を確保できていたが、リハビリスタッフ2名の育児休業もあり、個別リハビリやリハビリ加算の獲得に影響し厳しいものであった。ただ、事業所の方針は「自立支援」が大きな目標であったため、自主トレーニングや個々の活動が充実しており、利用者からの不満は聞かれていない。ご家族からは「活動性が広がりうれしい」との声が多く聞かれていた。 後半は冬季入所や体調を崩し入院する方等が多く、利用者減になっていた。突発的な事も対応できるよう計画に沿った運営管理に努めていく。 <ul style="list-style-type: none"> 事故は減少している。ひやりハットが少ないのは気づきがないことにも繋がる。ひやりハットの書く意味を再度認識してもらい、重大事故に繋がらないようにしていく。 忘れ物等は昨年に比べて減少している。持参の薬は必ず朝、夕とチェックを二重にし、持ち物や衣服についても名前の明記を徹底したことは評価したい。 送迎車両の物損事故は発生していないが、何時できた
-------	--	---

		かわからぬ小さな傷は多数見かけるため送迎時の車両点検を徹底し、引き続き安全運転に努める。
財務の管理	①計画に基づいた予算を立て、収入と支出のバランスを整える	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度は後半に稼働率の低迷があり、安定した収入を得ることが出来た。次年度はこれを踏まえ安定した稼働率を確保する。 ・予算積算書に沿った物品購入や調整ができた。 (公用車ハイエース購入) また、人件費の減少、高価品の購入保留等により支出調整できた。 ・請求業務事故の減少、未収金に迅速に対応したことでのコスト削減、無駄な出費を予防できた。
人事の管理	①向上心と介護の質を高めるため、知識と技術の習得に努める ②人材確保と職員の育成に努める	<ul style="list-style-type: none"> ・研修内容や実施方法の検討が課題である。 ・外部研修の参加は全くできていない。内部研修とは違い、外部の方からの情報や様々な刺激を受ける良い機会である。今後は積極的に関わり参加を促していく。 ・一人ひとりのモチベーションの向上とスキルアップに取り組んでいく。 ・昨年同様、離職者が多い一年であった。人手不足等に

		<p>より事業所全体の雰囲気に余裕がなく、給与等の待遇面への不満など、職員全体のモチベーションが下がっていた。職場の人間関係や事業所の体制を改善し、一人ひとりの健康状態、精神面の配慮を行い働きやすい職場を作り、離職防止に努める。</p> <p>③法令遵守に努める</p> <ul style="list-style-type: none">・個人情報管理を徹底し法令遵守に努めた。
--	--	--

事業所名：寒河江やすらぎの里 訪問リハビリテーション

目標	実施内容	評価
経営の管理	①利用者が可能な限り在宅において 能力に応じ自立した生活を営むこ とが出来るよう、身体機能の維持、 回復を目的としたリハビリを提供 する	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の医師からの情報提供、 当施設医師による診察とケ アプランを基に利用者の身 体・精神・社会面の評価を行 い定期的にリハビリテーシ ョン計画書作成・見直し、リ ハビリテーションの実施が できた。 ・地域の医師に対し在宅生活の 状況、身体面・精神面の状況、 リハビリの状況について月1 回報告書を提出している。 滞ることなく報告できた。 ・ケアマネージャーには積極的 に情報提供した。身体・精 神・社会面の細部まで報告す ることができた。 ・リハビリ結果であるが身体・ 機能面・精神面が維持でき在 宅生活が継続できる利用者 が殆どであった。
事業の管理	①訪問リハビリ事業の拡充を目指す	<ul style="list-style-type: none"> ・育児休業取得職員がおり、1 人体制となり実績が伸びな かった。 ・問い合わせ・相談はあったが 都合が合わず利用に結びつ かない状況があった。 ・医師をはじめ関わる他職種の 理解を得ながら法に則った 業務を行い利用者の拡大を 目指していく。

財務の管理	①事業所としての経営基盤を確立する	<ul style="list-style-type: none"> ・当初の予算に対して、収入実績は目標には至らなかった。 ・無駄がなく効率的に移動できるように気配り訪問調整ができた。次年度も効率的に訪問できるよう調整していく。
人事の管理	①訪問リハビリ職員としての素養を磨き質の高い人材育成を図る	<ul style="list-style-type: none"> ・施設内研修への参加はできたが、専門性を伸ばすようなスタッフ勉強会の開催はできなかった。定期的な開催を目指したい。施設の他職種職員と合同で勉強会開催も検討していく。 ・利用者の状況など担当者同士の情報共有、連携が図れた。 ・接遇対応・リスク管理を常に念頭に置き業務にあたった結果、苦情や大きな事故もなく経過している。今後も職員の資質向上のため自己啓発に努めていく。

事業所名： 寒河江やすらぎの里 認知症高齢者グループホーム

目標	実施内容	評価
経営の管理	<p>①住み慣れた地域で利用者ひとり一人が自分らしく、快適に生活できるように支援する。</p> <p>②地域交流と地域における公益的な取り組みの実施</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・年度初めより職員数は余裕のない状況であったが、上半期は毎月のようにドライブや外食会など個別対応で外出の機会を設けることができた。下半期は職員の離職や産休・育児休業のため、通常のユニットケアを遂行する事が厳しい状況となつた。利用者処遇に支障を来さぬよう、また職員が無理なく業務を行えるよう、利用者全員一つのユニットに集まって貰い、食事や余暇活動を実施した。その状況を利用者や家族、市担当者へ説明し了解を頂いた。利用者の生活スタイルが変わることで心配な面もあったが、利用者間の交流が活発になり、笑顔で過ごしている方も増え、精神面の安定に繋げることができた。 ・自宅と同様、夜間入浴を希望されている利用者が増えている。入所後も生活リズムを変えずに就寝できる事や寝る前に入浴することで安眠にも繋がっており、喜んで頂いている。 ・例年より外出支援の回数は減ってしまったが、外出が好きな利用者を中心に、毎月2回本楯公民館で開催している「いきいきサロンはつらつ本楯」へ参加している。定期的に来訪することで地域利用者や担当者とは馴染みの関係を築く事がで

		<p>きており、良い気分転換になっているようである。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域小売店へ買い物に行く機会は少ないが、行事食は地域の商店から購入するよに心掛けた。例年よりは少なかったが、経済的地域貢献ができたのではないかと思われる。
事業の管理	<p>97%以上の稼働率を目指す</p> <ul style="list-style-type: none"> ①利用者の健康管理 ②適切なサービスの提供 ③空床防止と利用者確保 ④法令遵守 	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度の退所者は7名。待機者を確保できていたためスムーズに新規利用者を受け入れることはできたが、職員不足のため入所の時期は調整しながら対応させていただいた。空室が数室重なった時期もあったが、稼働率は97.4%と目標を達成することができた。 ・体調に変化があった時は早めの受診を心掛けたが、例年より入院者や救急搬送された方が多く、入院期間の長い方が多かった。入所者の平均年齢も上がっている。健康な生活が継続できるよう、体調管理や感染症予防、転倒防止に努めている。 ・入所申請者は直ぐに入所したいと希望されている方が多く、複数の事業所を申請する家族が増えている。居宅介護支援事業所や協力病院、併設老人保健施設との連携を図りながら待機者の確保に努めた。

財務の管理	<p>①経営状態を把握し、予算に沿った収支の確認とコスト削減に努める</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・収入については当初予算に対し、96.4%の達成率だった。 ・設備面については計画に則り両ユニット浴室ボイラーアップやもがみユニットのシンク改修を実施し老朽劣化箇所の改善復元等環境の良化持続に努めた。来年度はさがえユニットシンク改修工事を予定している。 ・消費税が増税となったが、介護保険給付対象外料金は増税前の料金を維持し様子を見ている。収入と収支のバランスを整えながら計画性のある経営を実施していく。
人事の管理	<p>①研修の充実</p> <p>②職員の健康管理と離職防止</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・職員不足により外部研修へは参加できなかつたが、定期的に認知症ケア研修を実施し、介護技術や知識の向上が図れるように努めた。 ・職員のレベルアップや資質向上を図るためにも内外問わず様々な研修に参加できるようにしていきたい。 ・今年度は3名の職員が離職。主に仕事と家庭との両立が難しくなったとの理由であった。会議時に業務内容の見直しを行い、働きやすい環境作りに努めたが離職を防ぐことはできなかつた。職員一人当たりの夜勤回数も増えている。今後も心身ともに働きやすい環境を築けるよう、職員の健康状態や精神面、家庭環境については十分な配慮を行い、離職防止や人材確保及び人材育成に努めていく。

事業所名： 寒河江やすらぎの里 居宅介護支援事業所

目標	実施内容	評価
経営の管理	<p>①在宅生活の支援・維持を目標とし、利用者様の意思・人格を尊重し、保健・医療・福祉の分野から総合的にサービスを選択し、決定できるように支援する</p> <p>②社会的責任を持ち、誠実にその業務を遂行する</p> <p>③家庭の事情などで在宅生活が困難であると判断した場合は、適切に施設入所等の支援をする</p> <p>④特定事業所加算（Ⅲ）の算定事業所として質の高いケアマネジメントを行うように努める</p>	<ul style="list-style-type: none"> 支援困難事例については、事業所内で検討する機会を設け、保険医療及び福祉に関する諸制度等、外部研修で得た知識を生かし、地域包括支援センターと連携を図った。そのため、自立支援を含め、生活環境の調整、多様なサービス選択等の対応をすることができた。
事業の管理	①稼働率 82%を確保する	<ul style="list-style-type: none"> 平成 30 年度の介護新規件数は 34 件、予防新規委託は 7 件であった。常時、新規受け入れを積極的に実施し、稼働率は 91.12%と達成することができた。
財務の管理	<p>①収支のバランスを考慮し、適正な財務管理を目指す</p> <p>②介護保険制度法改正の習熟度を高め、適切な利益確保に努める</p>	<ul style="list-style-type: none"> 収入に関しては当初の予算に対し実績 97.26%と達成している。 正しい居宅支援費の請求に努めるため、内部で伝達確認を行った。
人事の管理	<p>①働き易い職場の環境づくりを目指す</p> <p>②積極的に研修等に参加し、適切なケアマネジメントの質の向上を目指す</p> <p>③法令の遵守に努める</p>	<ul style="list-style-type: none"> 外部研修では、現に抱える処遇困難ケースについての具体的な処遇方針について学ぶことができた。 事業所内研修においては計画的に研修を実施した。今後、必要に応じて改善措置を講じていく。

事業所名：寒河江やすらぎの里保育園

目標	実施内容	評価
経営の管理	<p>①保育の理念や目標に基づき、こども、保護者、地域の実情等踏まえた保育園保育を行う</p> <p>②保護者の就労及び子育て支援</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度は4月当初は0歳児が1人という状況からスタートだった。市から紹介の地域枠園児も入園可能な限り受け入れ、5月からは途中入園児が増え最終的には0歳児は定員数の利用となった。しかし前半は、利用園児の家庭問題等で入退所が目まぐるしく推移し、保育計画の立案と実施についてはなかなか思うようにいかなかったが、後半は落ち着いて取り組む事ができ希少な低年齢児受け入れ施設として評価を頂けるように努力した。 ・保護者アンケートでは、まだまだ厳しい評価や、要望があり満足度の高い保育をめざすには他園とは違う特色のある保育を計画するよう努めていきたい。 ・保護者の就労環境に応じた子育て支援、延長利用なども保護者の希望に添った支援ができた。また事業所枠の特性や地域枠の対応についても慣れ、送迎時の保護者との会話を重視したり、保護者会や連絡ノート等で情報収集や提供及び信頼関係の向上に努めた。

事業の管理	<p>①寒河江市の認可保育園としての事業運営</p> <p>②安全、安心な保育サービスの提供</p> <p>③災害への備え</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・市の認可保育施設と同等の基準に沿った事業運営の下、市の担当者と連携し運営に努めた。結果として今年度も指導監査について指摘される事項もなかった。 ・安全、安心について、常に危機管理意識を持ち努めていかなければならない。その結果として、インフルエンザ発症や感染症もなく努力の結果がみられた。 ひやりハット報告も前半は噛みつき等もみられたが、その後過少にとどまる。しかし、一つの誤飲の事故が信頼関係を崩すこととなり、もう一度原点に戻り事実を確かめが必要と同時にこれから課題である。 ・子どもの保護者のプライバシーの保護や知り得た事柄についての守秘義務は、しっかりと守り保護者の安心に努めることができた。 ・緊急時の対応の具体的な内容及び手順、保育士の役割分担などの体制をマニュアル化して毎月設定を変えて訓練し災害に備えている。
-------	---	--

財務の管理	①利用実績に基づいた正確な請求 ②経費削減の意識の徹底	<ul style="list-style-type: none"> ・請求業務については、利用実績の正確な把握を行うために、タイムカードで登園、退園を把握し事務との連携で正しく行うことができた。 ・自発的に保育士全員が考えながら取り組み省エネを徹底した。また、図書館等の社会資源を有効利用し、子ども達にいろいろな絵本に触れさせ情操教育の一つとした。
人事の管理	①保育の質を高める為の知識、技術の習得に努める ②保育士の育成	<ul style="list-style-type: none"> ・職務内容により、研修計画を作成して、国のキャリアパスを利用しての研修会に積極的に参加し自己啓発に努めた。 ・互いの役割を理解して、働きやすい環境作りを行った。 ・業務の内容を明確にして、意欲・責任感を高めた。

事業所名：特別養護老人ホーム やすらぎの里金井

目標	実施内容	評価
経営の管理	<p>①介護サービス計画に基づき、利用者一人一人が有する能力に応じ、安全で快適な暮らしを営むことができるよう支援する</p> <p>②常に内部で情報を交換しながら、業務の効率性や信頼性を高める</p> <p>③地域公益活動への取り組み</p>	<ul style="list-style-type: none"> 季節の行事として外出行事は昨年度より実施できなかったが、ユニット内で行える行事を行った。合同で行事を行い他ユニットとの交流も実施できた。 業務の見直しを試みたが、効果的な取り組みにつながらなかった。 地域の方の要望に対し、施設全体で対応を心掛けた。
事業の管理	<p>①稼働率の安定化</p> <p>②法令遵守の強化</p> <p>③リスクマネージメントへの対応</p>	<ul style="list-style-type: none"> 収入面は目標額に到達したものの、利用者の重度化に伴い、入院者の増加、長期間の入院となるケースが多くなった為、稼働率達成に至らなかった。 個人情報や必要な法令を意識し、安全・安心なサービス提供を行った。 利用者の家族からの苦情により、利用施設サービス点検調査委員会(第三者委員会)を開催するに至り、年度内の解決に至らず、現在も対応中である。
財務の管理	<p>①安定した収益の確保</p> <p>②支出の節減</p>	<ul style="list-style-type: none"> 定期的会議にて収支状況の確認の機会を設けた。 事務担当者と情報交換を密にし、予算の状況に合わせて物品の購入等を行った。
人事の管理	<p>①人材の育成と離職防止</p>	<ul style="list-style-type: none"> 年間計画のもと自主研修の開催を行った。 昨年同様離職が多く、職場環境や業務改善が課題と考え、人員体制の見直しを検討した。

事業所名：やすらぎの里金井 小規模多機能居宅介護事業所

目標	重点事項	評価
経営の管理	①家庭的な環境と地域住民との交流を大切にし、住み慣れた地域で生活が続けられるよう支援する ②常に内部で情報を交換しながら、業務の効率性や信頼性を高める ③地域公益活動への取り組み	<ul style="list-style-type: none"> ・地域行事への参加はできなかったものの、地域の方の訪問や定期的なボランティアの受け入れはできた。 ・通いと宿泊のバランスを考慮し、利用者の満足度を落とすことなく収益の安定に繋げることが出来た。 ・地域の方の要望に対し、施設全体で対応を行った。
事業の管理	①稼働率の安定化 ②法令遵守の強化 ③リスクマネージメントへの対応	<ul style="list-style-type: none"> ・収入面は目標額に到達したものの、新規の利用相談者は連泊希望者が多く、従来の利用者も泊り中心の利用希望が多く、新たな利用者の獲得に至らず、稼働率が低下した。 ・個人情報や必要な法令を意識し、安全・安心なサービス提供を行った。 ・事故発生時は改善策を検討し、再発防止に努めた。
財務の管理	①安定した収益の確保 ②支出の削減	<ul style="list-style-type: none"> ・定期的会議にて収支状況の確認を行った。 ・事務担当者と情報交換を密にし、予算の状況に合わせて物品の購入等を行った。
人事の管理	①人材の育成と職員の離職防止	<ul style="list-style-type: none"> ・年間計画のもと自主研修の開催を行った。 ・昨年同様離職防止に至らず、離職者が出てしまった。中途採用職員や派遣職員での増員となつたが、今後の体制を協議し、定員の変更となつた。(定員 29 名から 21 名に変更)

事業所名：やすらぎの里金井 介護予防拠点施設

目標	実施内容	評価
経営の管理	①日常生活支援総合事業の取り組み ②日常生活支援総合事業の啓発活動 ③地域における公益的な取り組みの実施	<ul style="list-style-type: none"> ・通所型サービスCの卒業生や包括との連携により通所型サービスAの利用者が維持できた。 ・定期的に担当包括への空き情報の通知等連携を取り、利用者確保に努めた。 ・地域住民対象のサロンへの出張や事業所内での運動教室の実施により、安定した地域公益活動が出来た。
事業の管理	①稼働率の安定化 ②法令遵守の強化 ③リスクマネージメントへの対応	<ul style="list-style-type: none"> ・サービスAの利用者は維持出来たもののサービスCの利用者確保については地域包括センターからの情報が少なく、稼働率の目標達成は出来なかった。 ・個人情報や必要な法令を意識し、安全・安心なサービス提供を行った。 ・事故発生時はすぐに連携し迅速な対応が出来た。検証を行い改善策を確認し、再発防止に努めた。
財務の管理	①収支状況の把握 ②収支の節減 ③委託費の管理	<ul style="list-style-type: none"> ・定期的会議にて収支状況の確認の機会を設けた。 ・事務担当者と情報交換を密にし、予算の状況に合わせ物品の購入等を行った。 ・委託費の管理が出来た。
人事の管理	①人材の育成と離職防止	<ul style="list-style-type: none"> ・年間計画のもと自主研修の開催を行った。 ・同業者間での意見交換や会議に積極的に職員が参加し意見交換を行った。 ・定期的に会議開催し職員間の意見交換が出来た。

